Fund Information
販売補助資料

2022年5月20日
日興アセットマネジメント株式会社

グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）／（年2回決算型）

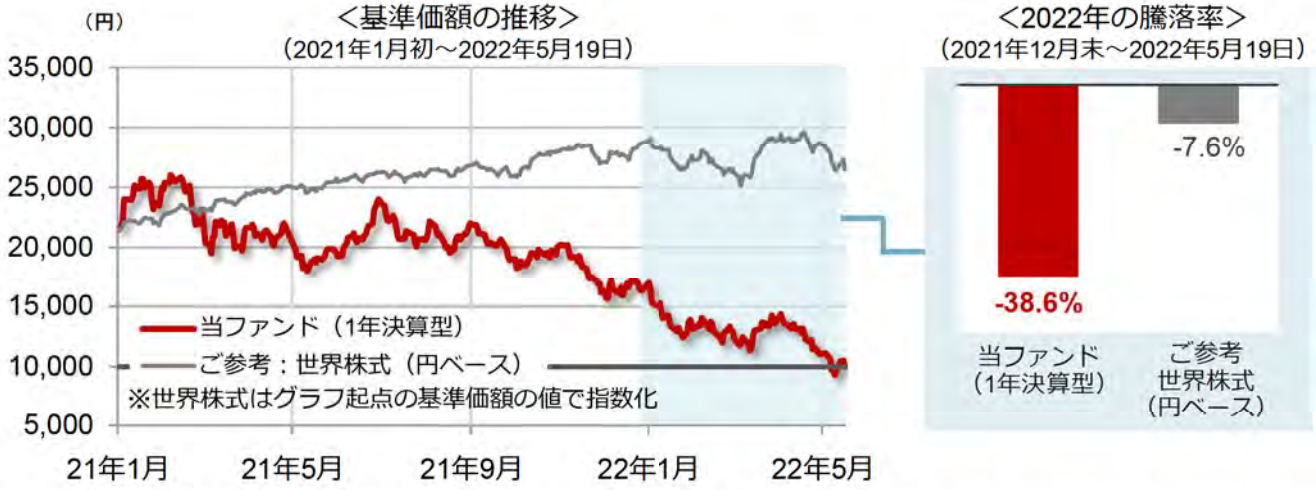
足元の基準価額の動向について

ゲノム関連ビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式に投資を行なう当ファンドの基準価額は、2021年以降、インフレ懸念の高まりなどに伴なう米長期金利の上昇を受けて進んだ、グロース株からバリュー株への資金シフトの動きなどが重石となり、軟調な推移となりました。

2022年に入ると、米FRB（連邦準備制度理事会）による金融政策の正常化プロセスが従来の想定より早く且つ迅速に進められるとの見方が市場で拡がったことで、グロース株を中心に下げ足が速まりました。さらに2月下旬、ロシアによるウクライナへの侵攻が始まると、欧米による対ロシア制裁やその反動などによる資源高に見舞われ、さらにインフレ昂進が加速しました。加えて、先が見通しづらい地政学リスクへの懸念が市場で高まり、将来的に高い利益成長が見込まれる銘柄よりも、目先の安定性が期待される銘柄が好まれる傾向となりました。

2022年3月には米国で政策金利が引き上げられ、次いで、5月の米FOMC（連邦公開市場委員会）では追加利上げとFRB保有資産の縮小開始が決定されました。加えて、中国における新型コロナウイルス感染拡大に伴なうロックダウン（都市封鎖）により、同国経済の先行きへの懸念が高まったこと、また、決算発表で成長期待が剥落した一部の米主要ハイテク株が売り込まれたことなどが重石となり、当ファンドの基準価額は低迷することとなりました。

当ファンド（1年決算型）の基準価額の推移と騰落率



※ 基準価額は信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の1万口当たりの値です。
※ 世界株式はMSCI ACワールド指数（トータルリターン、米ドルベース）の値を、当ファンドの基準価額の算出方法に対応させるため、前営業日の値に当日の為替を適用して、日興アセットマネジメントが円換算しています。
なお、上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。
※ 信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成
※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

nikko am 日興アセットマネジメント

当資料は、投資者の皆様に「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）／（年2回決算型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

足元の投資環境について
～米長期金利の上昇や、中国経済の停滞懸念の高まりなどが逆風に～

- 2021年2月以降、インフレが続く中、新型コロナウイルス向けワクチン接種の進展に伴ない、経済活動再開の動きが進み、景気回復期待が高まったことなどもあり、米国を中心に金利が上昇しました。こうした動きを受け、株式市場では高PER（株価収益率）のテクノロジー関連銘柄などの割高感が意識され、景気敏感株などに投資資金をシフトする動きが強まった影響から、当ファンドの基準価額は軟調な推移となりました。
- 2021年5月から10月半ばにかけて、米長期金利の上昇が一服したこともあり、基準価額は反発を交えながらも概ね横ばいの動きとなりました。しかし、その後は、インフレが一段と進んだことなどを受け、FRBが金融政策の正常化を急ぐとの見方が拡がり、米長期金利が再び上昇傾向となった影響などから、基準価額は再び軟調な値動きとなりました。2022年2月には、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始し、欧米がロシアに対する経済制裁措置の導入に動くなど、ウクライナを巡る情勢が緊迫化し、地政学リスクが高まったことも、株式市場の下押し要因となりました。
- また、4月に入ると、中国での新型コロナウイルスの感染再拡大を受け、上海に続いて北京でもロックダウン（都市封鎖）が実施されるとの観測とともに、中国経済の先行き懸念が拡がったほか、米国で、決算発表を受け成長期待が剥落した一部の米主要ハイテク株が売り込まれたことなどが、投資家心理を冷やしました。こうした状況下、世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まり、株式市場が軟調な推移となるとともに、当ファンドの基準価額も大きく値下がりしました。

ご参考：2021年以降の基準価額（1年決算型）と米10年国債利回りの推移

※ 基準価額は信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の1万口当たりの値です。
※ 信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成
※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

2022年以降における個別銘柄寄与度について

2022年以降の当ファンドのパフォーマンスに寄与した主な銘柄は、以下の通りです。

<当ファンドのマザーファンドにおける銘柄別パフォーマンス寄与度と主な銘柄の概要>
（2021年12月30日～2022年5月10日）

※写真・イラストはすべてイメージです。

寄与度上位5銘柄

銘柄名	国・地域	寄与度
バーテックス・ファーマシューティカルズ	米国	0.54%
コルテバ	米国	0.25%
ノバルティス	スイス	0.17%
リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米国	0.16%
インサイト	米国	0.10%

バイオ医薬品企業。難病の一種である嚢胞性線維症治療薬の商業化に成功した唯一の企業で、近年では、CRISPR関連技術を使った希少疾患治療などへ開発の幅を広げる。

市場予想を上回る2021年10-12月期決算内容や、嚢胞性線維症の治療薬の一つで、適応年齢拡大の承認を欧州委員会から獲得したとの発表が好感され、株価が上昇

寄与度下位5銘柄

銘柄名	国・地域	寄与度
インテリア・セラピューティクス	米国	▲3.93%
テラドック・ヘルス	米国	▲2.86%
フェイト・セラピューティクス	米国	▲2.28%
インビテ	米国	▲2.02%
バーニングロック・バイオテック	中国	▲1.69%

画期的なゲノム編集技術であるCRISPR/Cas9の基礎的ライセンスを保有する3社のうちの1社

遺伝性疾患「遺伝性ATTRアミロイドーシス」向けに同社が開発を進めるゲノム編集療法に関して、有効性を実証するデータが発表されたものの、市場の期待を上回るものではなかったことなどから、株価が下落

オンラインで、診断や療法助言、投薬の処方などの遠隔医療サービスを提供する人手医療サービス会社

2022年1-3月期決算で、減損処理を行なった結果、EPS（1株当たり利益）が市場予想以上の赤字となったことや、同年通期の業績見通しが引き下げられたことなどが嫌気され、株価が大幅に下落

血液などを調べることで患者の病気を特定する分子診断や遺伝子検査サービスを提供する中心的企業

2021年の決算内容が市場予想を下回る内容だったことに加え、普通株式や優先株式、社債などの発行のための事前登録を行なったことを受け、増資による株式価値の希薄化懸念が強まったことなどから、株価が下落

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。
※寄与度は、各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト（売買手数料や信託報酬など）などは考慮されていません。また、外貨建ての銘柄については、円換算済みの概算値となっています。そのため、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ARKからのメッセージ

これまで進行してきたイノベーション
これは、もはや止めることができない大きな潮流に

中長期の時間軸で見れば、イノベーション関連銘柄は割安な水準に

ここ1年を振り返ると、コロナ・ショックとはまた別のショックが起きているように思います。それは、インフレと金利上昇に対するショックです。こうしたショックの渦中にあるとき、株式市場では、ごく限られた観点に基づき、それに関連した売買が集中して行なわれることがあります。この1年はどうかというと、インフレと利上げ、そしてそれが市場におけるバリュエーションを破壊するのではないか、つまり高いPERは維持出来ないのではないか、という観点です。そして、ご承知のようにバリュエーションの高い銘柄が売られました。

この1年間、短期的な視点でのバリュエーションが高い銘柄が売られる中で、ARKが保有を助言していた銘柄も大きく値下がりしました。しかし、**ARKは5年といった長い時間軸での収益を前提に企業価値を考えており、中長期の時間軸で見れば、保有助言銘柄のバリュエーションは魅力的な水準にある**と考えています。このところの株価調整を経て、私たちが注目するイノベーション関連銘柄のバリュエーションは大幅に低下し、ディープバリュー（極めて割安）の状態にあると考えています。

この先、イノベーション関連企業が大きな市場シェアを獲得する可能性が高まるとみており、イノベーションとの関連性の低い従来型企業のリスクを投資家が織り込み始めれば、イノベーション関連銘柄が再び注目を集めると考えています。

成長を続けるイノベーションは、企業に売上と利益をもたらす

これまで進行してきたイノベーション、それがコロナ危機との戦いの中でさらに加速することとなりましたが、もう止めることのできない潮流となっています。そして、様々なテクノロジーの融合が、今まさに進行中であり、成長を生み出し続けていくでしょう。

2000年代初めにかけてのITバブルの際には、IT関連というだけで売上のない赤字企業も大きく上昇しました。しかし、**我々が着目するイノベーション関連企業は、しっかりと収益を上げ、高い成長率の実現が期待できる、実態のある会社**と考えています。

改めまして、日頃よりご愛顧いただきありがとうございます。そして、我々の取り組みをご理解いただきありがとうございます。我々は、**この荒波の向こう側には明るい未来があると信じています。**

Catherine D. Wood
（創業者、CEO／CIO（最高投資責任者））

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）／（年2回決算型）」のマザーファンドに助言を行なっているアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（ARK）のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方等を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

nikko am 日興アセットマネジメント
当資料は、投資者の皆様に「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）／（年2回決算型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

設定来の運用実績

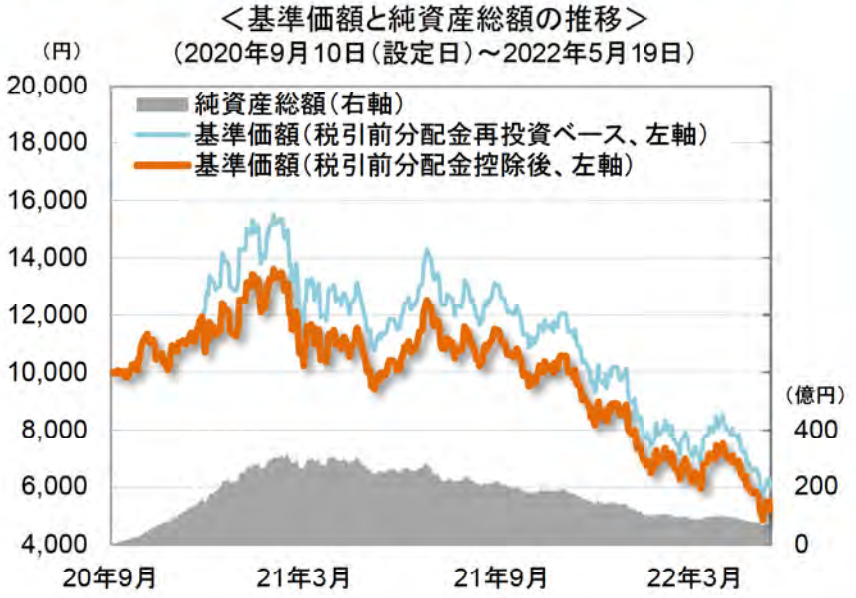
グローバル全生物ゲノム株式ファンド（１年決算型）

基準価額
10,011円
純資産総額
317億円
2022年5月19日現在

＜分配金実績＞

2019年12月	0円
2020年12月	0円
2021年12月	0円
設定来合計	0円

グローバル全生物ゲノム株式ファンド（年2回決算型）



基準価額
（税引前分配金再投資ベース）
5,975円
（税引前分配金控除後）
5,241円
純資産総額
69億円
2022年5月19日現在

＜分配金実績＞

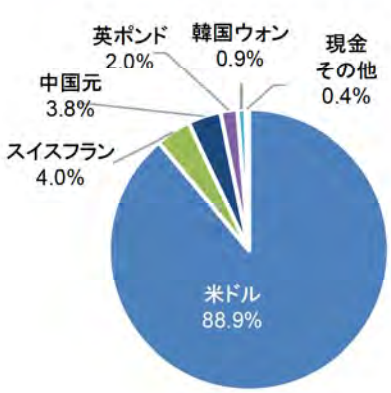
2020年12月	1,500円
2021年6月	0円
2021年12月	0円
設定来合計	1,500円

※基準価額は信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。
※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

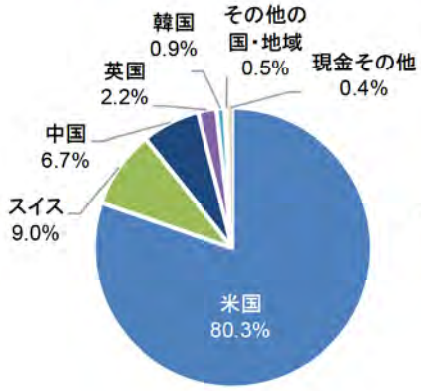
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ポートフォリオの状況（2022年4月末時点）

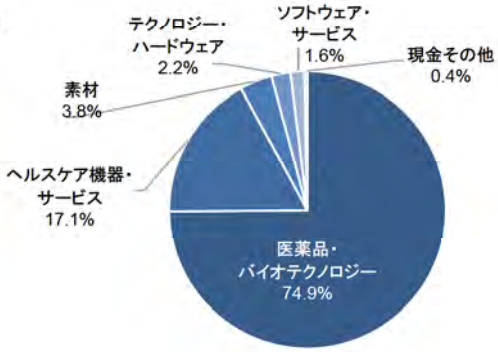
【通貨別比率】



【国・地域別比率】



【業種別比率】



※ 四捨五入などの関係で合計が100%とならない場合があります。

【組入上位10銘柄】

（銘柄数：51銘柄）

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	組入比率
1	イグザクト・サイエンシズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	6.2%
2	イオニス・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	5.7%
3	CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	4.9%
4	インテリア・セラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.8%
5	テラドック・ヘルス	米ドル	米国	ヘルスケア機器・サービス	4.2%
6	バーテックス・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.1%
7	フェイト・セラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.7%
8	ノバルティス	スイスフラン	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	3.3%
9	シグニファイ・ヘルス	米ドル	米国	ヘルスケア機器・サービス	3.2%
10	バーニングロック・バイオテック	米ドル	中国	医薬品・バイオテクノロジー	2.9%

※ 業種名はGICS（世界産業分類基準）に基づきます。
※ 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
※ 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※ 上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

nikko am
日興アセットマネジメント

当資料は、投資者の皆様に「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）／（年2回決算型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)をかならずご覧ください。

以下は大和証券でお申込みの場合です。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	100円以上1円単位*または、100口以上1口単位 *購入時手数料および購入時手数料にかかる消費税等相当額を含めて上記の単位となります。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	＜1年決算型＞2028年12月7日まで(2019年1月16日設定) ＜年2回決算型＞2028年12月7日まで(2020年9月10日設定)
決算日	＜1年決算型＞毎年12月7日(休業日の場合は翌営業日) ＜年2回決算型＞毎年6月7日、12月7日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	＜1年決算型＞ 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ＜年2回決算型＞ 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます。 ※基準価額の1万円超過額(1万口当たり)について全額分配をめざすものではありません。また分配金額が少額となる場合があります。 ※分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
スイッチング(乗換え)	「1年決算型」と「年2回決算型」との間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

＜お客さまが直接的に負担する費用＞

購入時手数料	購入金額に以下の手数料率(税込)を乗じて得た額とします。 購入金額 / 手数料率(税込) 1億円未満 / 3.3% 1億円以上5億円未満 / 1.65% 5億円以上10億円未満 / 1.1% 10億円以上 / 0.55%
スイッチング手数料	ありません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

＜お客さまが信託財産で間接的に負担する費用＞

運用管理費用(信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.804%(税抜1.64%)
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社	受託会社	三井住友信託銀行株式会社
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アメリカズ・インク	販売会社	大和証券株式会社　ほか

お申込みに際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

●当資料は、投資者の皆様に「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)／(年2回決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。●当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。●投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。●分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。●投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

大和証券
Daiwa Securities

大和証券株式会社　金融商品取引業者　関東財務局長(金商)第108号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、
一般社団法人日本STO協会

設定・運用は

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

掲載銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。